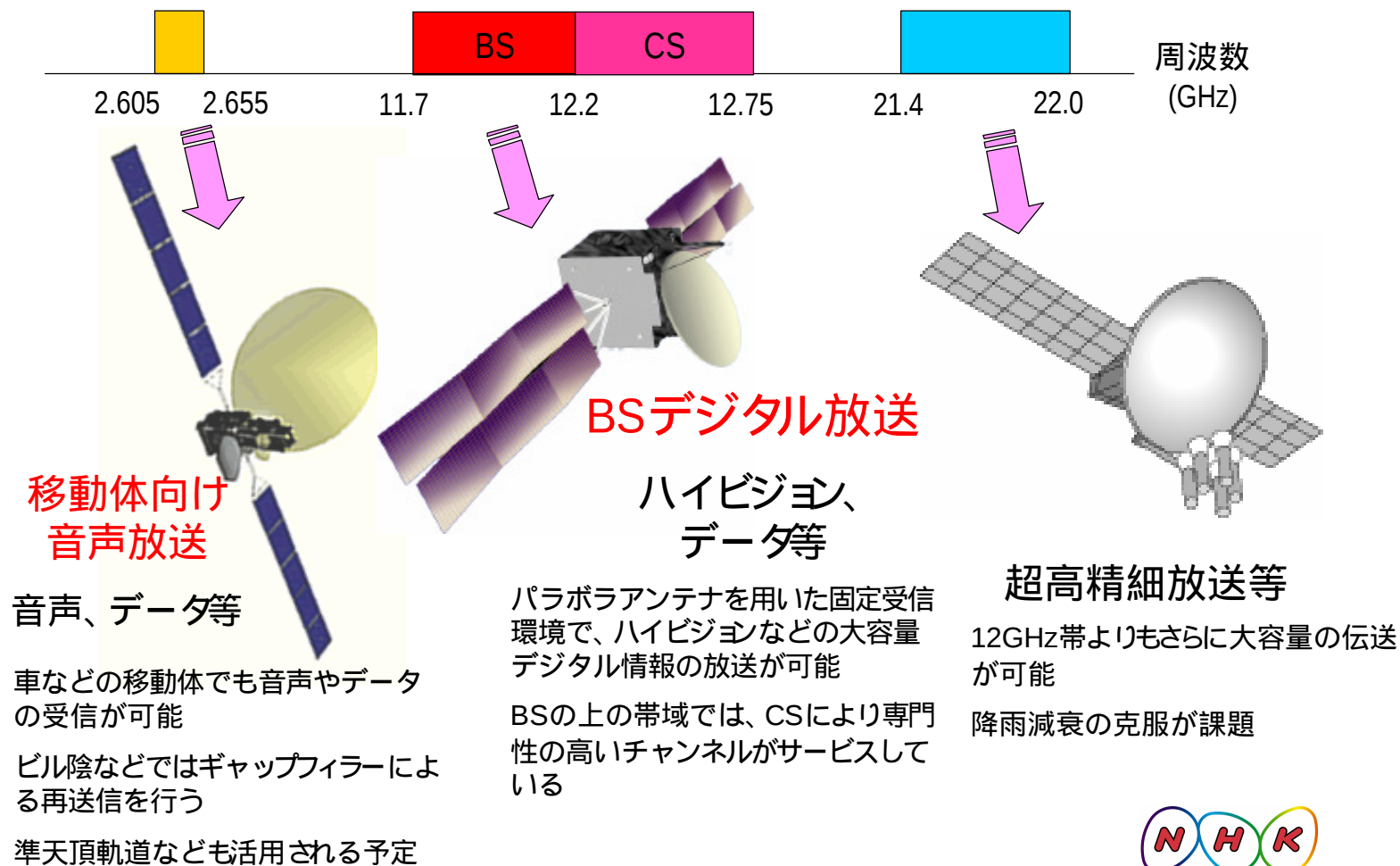


衛星放送の割当周波数とそれぞれの特徴



今後の放送における宇宙開発利用に向けた国への要望

➡ 12GHz帯のさらなる活用

- ➡ 周波数を柔軟に活用し、国民が期待する放送が提供できる環境を整備する必要がある
- ➡ 12GHz帯を活用して、より高機能な衛星や多様な放送形態に向けた開発が望まれる

➡ 将来の衛星放送に向けて

- ➡ 周波数、軌道位置は資源として国の財産であり、これらを活用するためには衛星放送としての活用が有効である
- ➡ 準天頂衛星、21GHz帯衛星においても、放送への活用を行う場合には、信頼性確保が重要である
- ➡ 信頼性を確保するために、実用化を目指した実証実験等を国が先導して行う必要がある

➡ 信頼性の確保と長期間の事業者負担の軽減

- ➡ 衛星放送サービスが確実に行えるようになるまでは、国による対応が必要である



宇宙開発への取り組み 衛星放送-1

- ➡ 1965年 :NHK独自の衛星放送構想発表
- ➡ 1966年 :NHK放送技術研究所で衛星放送の研究開始
- ➡ 1972年 :NHKが実験用放送衛星 (BS) 打ち上げを要望
- ➡ 1973年 :宇宙開発委員会でBS開発計画を了承
- ➡ 1977年 :世界無線主管庁会議で、放送衛星の軌道と周波数を割り当て(東経110度、8チャンネル(当時国別として最大))
- ➡ 1978年 :BS打ち上げ(初の実験用放送衛星)
- ➡ 1984年 :BS-2a打ち上げ
- ➡ 1986年 :BS-2b打ち上げ
- ➡ 1989年 :衛星放送の本放送開始(NHK S1/S2の2チャンネル)
- ➡ 1989 年 :MUSE方式によるハイビジョン実験放送開始

宇宙開発への取り組み 衛星放送-2

- ➡ 1990年 :BS-3a打ち上げ
- ➡ 1991年 :MUSE方式によるハイビジョン試験放送開始
- ➡ 1991年 :BS-3b打ち上げ
- ➡ 1997年 :BSAT-1a打ち上げ
- ➡ 1998年 :BSAT-1b打ち上げ
- ➡ 2000年 :世界無線通信会議で日本の衛星放送に4チャンネルを追加
(計12チャンネルを使用可能)
- ➡ 2000年 :BSデジタル放送開始
(デジタルハイビジョン7チャンネル、データ放送の開始)
- ➡ 2001年 :BSAT-2a打ち上げ(デジタル衛星)
- ➡ 2003年 :BSAT-2c打ち上げ
- ➡ 2007年 :アナログハイビジョン放送終了予定
→ BSデジタル放送の拡充
- ➡ 2011年 :アナログ衛星放送終了予定



NHKの宇宙開発への取り組み 取材、番組制作等

- ➡ 1963年 :リレー衛星による太平洋を越える日米衛星実験 (初の中継映像はケネディ暗殺)
- ➡ 1964年 :静止衛星シンコム3号(日米間で24時間放送可能)により 東京オリンピックでの日米宇宙中継を実施
- ➡ 1986年 :日米専用衛星回線開設
- ➡ 1988年 :SNG(Satellite News Gathering)の運用開始 (静止衛星を用いたニュース素材伝送)
- ➡ 1998年 :スペースシャトルに初めてハイビジョンカメラを搭載 (向井千秋宇宙飛行士)
- ➡ 2005年 :月探査衛星(SELENE)にハイビジョンカメラを搭載する計画